

－ 高知の高校生に最高の知を －
第3回はブラックホールを撮影した統計学者 池田 思朗氏
「データを通して世界を理解する －統計学とブラックホール撮影」
＝ 高知高知講演会 12/6（土）永国寺キャンパス＝

高知工科大学では、高知の高校生に向けて、世界の第一線で活躍する研究者を身近に感じ、直接対話できる機会を提供しようと、今年度から『高知高知講演会』を開催しています。さまざまな分野の優れた研究者との交流を通じて、将来、高校生自らが高い知性を持ち、高知、日本、さらには世界に貢献するきっかけになればとの思いからです。

3回目となる今回の講師は、統計学が専門で、ブラックホール撮影をめざした国際プロジェクト「EHT Collaboration」のメンバーでもある池田 思朗氏。2019・2022年に発表した「見えないはずのブラックホールを観測データから画像化」といった“歴史的偉業”（右下の画像）にも携わるなど、データを読み解く「統計学」を駆使して、医学、天文学、水産業をはじめとしたさまざまな分野の研究者とともに、新たな世界を切り開いてくれました。

近年、AI（人工知能）の進化や、ビッグデータの増大などに伴い、注目が高まるデータサイエンス。本講演では、その可能性と、研究の最前線で試行錯誤する楽しみについて、わかりやすく語っていただきます。

第3回高知高知講演会

（高知工科大学 地域イノベーション共創機構事業）

■日時：2025年**12月6日（土） 14:00～16:30**（講演は**15:30**まで）

■会場：高知工科大学 永国寺キャンパス 教育研究棟A101

■参加費：無料

■定員：150名（高校生に限らず学生、および一般の参加も歓迎します）

① 講演：「**データを通して世界を理解する －統計学とブラックホール撮影**」 **14:00～15:30**

池田 思朗（いけだ しろう）氏 [統計数理研究所 教授]

専門は、統計学・統計的信号処理・情報幾何学

[プロフィール]

1996年東京大学大学院博士課程卒業後、理化学研究所、
九州工業大学を経て2003年より統計数理研究所に勤務。
2016年よりブラックホール撮影を目指した国際プロジェクト「EHT
Collaboration」のメンバー

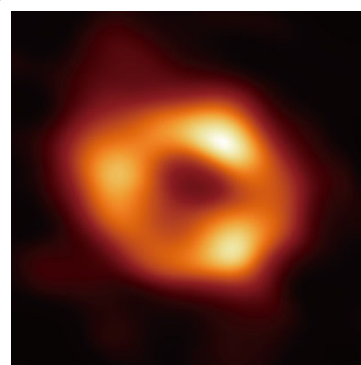
② 交流会： **池田氏と高校生等との交流会 15:30～16:30**

ファシリテーター：須藤 靖 [高知工科大学 特任教授]

◎参加希望者は、申込時に「交流会参加」を選択してください

■申込方法：本学ホームページ（EVENTS）から お申込みください
（専用の申込フォームに入力いただきます）

※当日のご参加も受け付けますが、事前登録頂いた方が予定人数を超過した場合には、
参加をお断りする可能性もありますので、あらかじめご了解の上できるだけ事前登録にご協力ください



EHTで撮影した天の川銀河中心の
巨大ブラックホールの画像
（Credit:EHT Collaboration）

※取材ご希望の場合は、**12月5日（金）の17時までに**、広報課までお知らせください。

【本イベントに関するお問い合わせ】

高知工科大学 地域イノベーション共創推進課

TEL.0887-57-2743 E-mail : org@ml.kochi-tech.ac.jp

【本リリースに関するお問い合わせ】

高知工科大学 広報課 渡瀬・前田

TEL.0887-53-1080 E-mail : kouhou@ml.kochi-tech.ac.jp

講演要旨

「データを通して世界を理解する ー統計学とブラックホール撮影」

統計数理研究所 教授 池田 思朗

統計学は、データを手がかりにして対象や現象を理解し、より良い判断をするための学問です。扱うデータによって、統計学者はさまざまな分野の研究者と共同研究を行います。私もこれまで医学分野、水産業、物理学、そして、天文学、といった分野の研究者と研究をしてきました。

異なる分野の人と意見を交わし、新しい発見や成果につながる瞬間は刺激的で、研究の楽しみのひとつです。最近は天文学との共同研究を行っていて、ブラックホールを撮影した国際プロジェクトにも参加しています。300人を超える世界中の研究者と議論を重ねた経験は貴重な経験となりました。本講演では統計学者の立場からブラックホール撮影についてお話したいと思います。



ファシリテーターより



総合研究所 須藤 靖 特任教授

今や、AI(人工知能)、機械学習、ビッグデータ、といった言葉を耳にしない日はないといっても過言ではないほど、データサイエンスは私たちの日常生活に大きな影響をもつようになっています。過去2回の「高知高知講演会」に参加してくれた方々のアンケートでも、データサイエンスに関する講演を期待する声が数多く寄せられました。

池田先生は、まさにその統計学分野を牽引されている研究者のおひとりで、多岐な分野にまたがる学際的研究で活躍されています。

今回はイベント・ホライズン・テレスコープとして知られている世界的共同研究において、ブラックホールが本当にブラックであることを観測的に明らかにしたお仕事を例として、統計学が切り拓くあらたな世界の一端を紹介していただけることと思います。どうぞご期待ください。

安芸市出身。東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授を定年退職後、2024年より現職。専門は理論宇宙物理学。「高知高知講演会」を立ち上げ、企画も行っている。